

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A 1B	二子玉川～荻田	3A 3B	長津田～鶴間	5A 5B	厚木～愛甲	7A 7B
三軒茶屋～二子玉川	2A 2B	荻田～長津田	4A 4B	鶴間～厚木	6A 6B	愛甲～大山	8A 8B



5. 長津田から鶴間まで

大山街道は長津田を過ぎると再び国道246号に合流します。そのまま西へ向かうと町田辻の交差点で、旧大山街道と国道とに分岐します。ここからしばらくの区間は、旧道を楽しむ旅が味わえます。

圓成寺(えんじょうじ)は、天正時代(1573～1592)には創立していたといわれ、境内には下鶴間村を支配した領主、江原家の墓があります。

目黒の交差点付近では、国道に阻まれて迂回せざるをえませんが、境川を渡ったところには観音寺があります。寺内には、天文13年(1544)作と思われる大和市重要文化財指定第一号の「厨子」があります。

この観音寺から先が下鶴間宿です。当時は「松屋」、「三津屋」、「ちとせ屋」等といった旅籠や、床屋、酒屋、小間物問屋等もあり、多くの旅人で賑わっていたとのこと。

さて、下鶴間宿を更に西に行くくと「まんじゅう屋」があります。現在は「記念碑」があるだけですが、天保11年(1840)には、渡辺華山も投宿しました。その店先で饅頭を売っていたところからこの名で呼ばれていました。

下鶴間宿から「まんじゅう屋」辺りまで上ると、一面の柴胡が原が広がっていました。渡辺華山は著書「游相日記」の中でこのように表現しています。

鶴間原出づ。この原、縦十三里、横一里。柴胡多し。よって柴胡の原とも呼ぶ。

この先相模大塚までは、大山を正面から右手に仰ぎながら、淡々とした大山街道を柴胡が原の中を歩いていくこととなります。

下鶴間宿

江戸よりおよそ十一里の下間宿には、大山街道沿いに松屋、三津屋、角屋といった旅籠を中心に、染物問屋、居酒屋、餅屋、質屋などの商家があり大変な賑わいであった。家数122軒(風土記稿)。大山道の宿内の道幅は4間と広く、交差する八王子道は幅2間で交通の要衝であった。伊能忠敬測量隊も文化13年(1816)3月18日にこの地を訪れ組頭彦八家に宿泊している。

10 横浜水道道路



近代水道として日本で初めて
施設した鉄管水道。国道北側
には当時の水道管が常設され
ている。明治 20 年には津久井
郡三井村から相模川の水を約
44km 送水した。

11 圓成寺(えんじょうじ)



宗派は浄土真宗本願寺派。
山号を山王山紫王院圓成寺
と称する。天正年代(1573～
1592)には創立していたといわ
れ、寺内には、木造聖徳太子
像や梵鐘・喚鐘が祀られてい
る。

12 観音寺



武相卯歳観音第 1 番札所とし
て名高い。高野山真言宗。山
号を鶴間山東照院観音寺と称
する。拝殿にある厨子は、大和
市指定文化財である。

13 鶴林寺(かくりんじ)



宗派は浄土宗。山号を宝亀山
寿翁院鶴林寺と称する。開山は
永禄 12 年(1569)以前といわれ
る。境内には、即身仏となった
瀬沼嵩信を弔う地藏や鶴間学
校跡、不動明王座像などがある。

14 まんじゅう屋跡



渡辺華山が弟子の高木梧庵と
共に投宿したのは天保辛卯
[二]年(1831)、華山 39 歳の秋
であった。その時の様子は「游
相日記」にも記述されている。

15 山王神社



大山街道と滝山街道が交わる
地点に位置する。境内手前には
庚申塔や青面金剛立像が
配置されている。

16 滝山街道



東京八王子の滝山城から鎌
倉玉縄城をつなぐ街道で、武
士団の移動、戦略物資の輸
送など盛んに利用されてい
た。

17 大和歩行者専用道



昭和 20 年初頭に神奈川県が
穀倉開発のため引いた畑地
灌漑用水路を廃止し、歩行者
専用道路として再整備したも
の。当時の取水口(相模湖)
は、横浜水道の取水口と並ん
でいた。

鶴間歩道橋

国道 246 号を天の川にたとえ、織姫、けん牛の絵のレリーフ
がある。

五貫目道祖神

基壇の左側面には「右 大山道 左 江戸道」と刻んである。